



きとう俊郎県政レポート



二〇二二年度に愛知県で
初となる「医療的ケア児
支援センター」の開設に
道筋をつけました。

12 月定例県議会で一般質問

たんの吸引や人工呼吸器の使用が必要な「医療的ケア児」を支える家族の負担が重いことを訴えました。2022年9月に施行された「医療的ケア児支援法」で、家庭への相談などを行う「医療的ケア児支援センター」を都道府県が設置できることに言及して、医療的ケア児の支援拡充についての県の見解を求めました。これに対して大村知事は、「医療的ケア児支援センターを来年度に設置したいと考えている」と答弁しました。そして、現在審議中の「2022年度愛知県予算」の中に、4972万円の予算が計上され、医療的ケア児の支援に向けて本格的な動きが始まりました。

【基幹支援センター1ヶ所】・・・医療的ケア児に対する支援の中核的な機関

①愛知県医療療育総合センター（春日井市コロニー）

【地域支援センター6ヶ所】・・・地域の実情に応じた支援の実施

②愛知県青い鳥医療療育センター（西区）③愛知県三河青い鳥医療療育センター（岡崎市）④一宮医療療育センター（一宮市尾西記念病院）⑤信愛医療療育センター（豊川市）⑥重心施設にじいろのいえ（東海市）⑦大同病院（南区）



今伊勢町馬寄交差点に歩行者信号を設置しました

地域のお声をいただき 1 月 29 日に、歩行者用信号機が共用開始しました。この馬寄交差点は今伊勢小学校の通学路です。1 日に 100 名を越す児童が朝夕に利用するため地域のボランティアの皆さんが誘導に立っておられます。その中心で活躍される地域づくり協議会の柳井会長さんからお声をいただいたのが、今伊勢町地元の柴田雄二市議員でした。会長さんからは「歩行者用信号機が無いために、車の信号が黄色になってから児童が渡るのを止めたのでは、危険です」とのお声でした。また、ガードレールが無いために児童と車両が接触する危険がありました。そこで、この道路が県道であるため私と連携して対策にあたり、このたび 2ヶ所のガードレール設置と歩行者用信号機の設置ができました。今後も公明党の「小さな声を聞く力」を実践して参ります（写真中央が柳井会長）

現場の声を国に届けます

全国一斉に公明党議員によるアンケート調査が実施されました。アンケートは、①子育て応援アンケート、②高齢者の支援拡充に向けたアンケート、③中小企業・小規模事業者等の支援拡充に向けたアンケート、の 3 種類です。いずれも生活者の視点に立った公明党

公明議員、アンケート運動

県制度で取引先獲得

愛知・一宮市で木藤県幹事長



森本代表取締役社長にアンケートを行う木藤県幹事長＝愛知・一宮市

公明党愛知県本部の木藤県幹事長（無所属）は 1 月 26 日、一宮市にある運送会社「社一有限会社森本商事」を訪れ、中小企業向けの支援拡充に向けたアンケートを行った。森本代表取締役社長は、「新型コロナウイルスの影響で仕事が減少する中、県の支援無利子・無担保の融資制度を活用したことを紹介、支援したい」と応じた。

木藤県幹事長は「運送業など社会を支える中小企業への支援に取り組むべきだ」と述べた。

公明党議員は「アンケートにより不況下でも新たな取引先を獲得でき、社員たちも安心して働いていると述べ、融資制度に助けられたことを話した。その上で「中小・零細企業向け支援をさらに拡充してほしい」と求めた。